



TOPIC
1

学生が薦める全学共通教育科目

岐阜大学 eplus (education planning university student team, 教育企画立案学生チーム) の学生が、昨年度に受講してぜひ他の人にもおすすめしたい授業を紹介してくれました。理系が専門の学生ですが、人文科学と社会科学の科目のなかに興味深い授業があったようです。読者のみなさんも「自分の専門からはだいぶかけ離れたテーマだけど、意外におもしろいかも……」「とても濃い内容なので、ぜひ他の学生にも聞いてほしい、経験してほしい」という授業がありましたら、ぜひわれわれにお知らせください(担当: 池田 y_iked@gifu-u.ac.jp 宛)。

社会科学科目 社会学分野 **メディア論** **国際メディア論** (三井愛子先生担当 後学期月曜2限)

この授業は、海外のメディアがどのような情報発信をしているのかを知ることで、メディアのあり方を考える授業です。そこでは、スライド資料だけでなく動画も用いて、テレビというマスメディアが視聴者にどう感じさせるかを体験しました。それによって、メディアの情報の切り取り方だけで、同じ事実でも印象は変わるものだとことを体感することができました。私は理系でメディア論についての基礎知識があまりない状態からスタートしましたが、考えるための素材となるテーマを学んだ後で、すぐに実際の例に基づいた解説をしていただき、非常にわかりやすい授業でした。コメントシート作成にあたっては、先生の解説をそのままぞろののではなく、講義内容の中身を噛み砕いて一般的な内容を選び、自分で考えをまとめることが大切です。それにより、メディアの切り取り方の国際的多様性や特色について面白い見地が得られました。また、自国のメディアについて鵜呑みにするのではなく疑ってかかるというような姿勢の大切さを体験しました。(工学部4年 堀山英杜)



三井愛子先生担当授業「メディア論の基礎」(前学期)



小島崇先生 (西欧諸国形成史)

人文科学科目 歴史学分野 西洋・中東史科目 **西欧諸国形成史** (小島崇先生担当 前学期月曜5限)

私はこの講義を特に理系の方にオススメします。私もそうでしたが、理系の方は高校時代に化学や物理、数学といった理系科目を重点的に勉強するため、歴史に関する知識がどうしても浅くなってしまいます。この科目では、古代から近世までのヨーロッパしか扱いませんが、高校のA科目よりももう一步踏み込んだ内容を勉強することができます。

また、歴史好きの方にはぜひ受講してもらいたいと思います。各章のテーマについて配布された資料だけでも多くの解説がついていますが、これに加えて、講師の先生からとても面白い詳細な事情や出来事を教えてもらえます。歴史上の出来事だけでなく、それが起こった経緯にまで興味がある人にとって十分に楽しめるものとなっています。

この講義を他の講義と組み合わせることで知識が結びつき、より面白くなる場合もあります。例えば、この講義と前期火曜1限の美術論(美術史)を組み合わせましょう。美術史の講義では、ヨーロッパの絵画の変化を学ぶ際に、イタリアで起こったルネサンスを境にして絵画で描かれる対象が物や神などから一般の人間へと変化することを学び

ます。一方、この講義では、当時流行して多くの人の命を奪った黒死病（ペスト）が「人々の興味を身近な生と死に向けた」とし、それが人間中心主義的な考え方をもたらしたことを学びます。このように、二つの授業をうまく組み合わせることで、同じひとつの事象をより深く理解することができます。（工学部2年 濱野高志）

TOPIC 2

English Xtra! を受けてみよう！

「英語が苦手で困っている」「留学に行きたいんだけどもう少し英語力を伸ばしたい」と思っている方に朗報です。この4月に新しく開設されたイングリッシュ・センターでは、5月から English Xtra! という個人レッスンはじめました。授業についての質問、留学に関する相談、自分で用意したテーマでの英会話の練習など、1回20分でイングリッシュ・センターの先生からマンツーマンで指導を受けることができ、7月末日現在で、すでに延べ300人以上のみなさんにご利用いただいています。まだ利用したことがない、という方はぜひ全学共通教育棟1階の正面入口から入ってすぐのイングリッシュ・センターにお越しください。利用にあたっては、事前にイングリッシュ・センター前に掲示されている受付表（Sign-up sheet）に名前を書いて予約してください。3名までのグループ利用も可能で、教職員のみなさんも利用できます。多くのみなさんのご利用をお待ちしております。



イングリッシュ・センターの先生方



English Xtra! の様子（オノ・ファンヘトホフ先生）

TOPIC 3

教養講演会を実施しました

6月13日（水）に第7回教養講演会「政事〈まつりごと〉と祭事〈まつりごと〉を通して民主主義を考える」が行われました。講師は犬山市長・衆議院議員等を歴任された、至学館大学伊達コミュニケーション研究所長の石田芳弘先生です。石田先生のこれまでの政治家としての経験に裏打ちされた熱い語りは、若い学生たちに政治に対するの当事者意識を強く感じさせるものとなったようです。参加した学生から寄せられたコメントをいくつか抜粋します。

「自分は今まで政治については『政治家の人に任せてしまえば大丈夫だろう』と思い、遠いものだと考えていましたが、自分にできることが投票だけだとしても、政治について知ること、自分でも考えることはとても大切だと思いました」。

「政治も祭事もとは人々の祈りであり、願いであり、後から『政治』『祭』という形になっていったという話が印象に残りました。政治と祭は全く関連しない異なるものだと思っていたけれど、どちらも『自然』にもとづいているという共通点があり、音楽や神社なども共通していると分かり、日本の根底には自然があるのだなと分かりました」。



石田芳弘先生



講演会の様子

高年次教養セミナーが始動しました！

今年度より、3年生、4年生を主な対象とする、これまでにない新たな全学共通教育科目として「高年次教養セミナー」がはじまりました。この授業は、様々な学部で個性豊かな先生方が、ご自分の研究内容のうちで教養として一番面白いところを取り上げてレクチャーしてくれるもので、岐阜駅前サテライトキャンパスでの講義終了後は場所を移動して引き続き「懇親会」を行い、教員と履修者との垣根を越えて議論を続けるというものです。昨年度までは「Partyゼミ」として正課授業の枠外でやってきましたが、今年度からは正規の授業となり単位を取得できるようになりました。いつも気になっている糖質やたんぱく質の性質から、動物とのコミュニケーションに至るまで、いずれの講義もわれわれの身近なテーマでありながら、それぞれの先生の専門的な知見が散りばめられており、常識的な思い込みを打ち破るような驚きの連続がありました。以下に各回の担当者、講義タイトルを挙げておきます。

第1回：矢部富雄先生（応用生物学部）「炭水化物（糖質）は体に悪いのか？」（4/27）

第2回：横川隆志先生（工学部）「タンパク質ができるまで」（5/25）

第3回：菊地聡先生（工学部）「自動車のまわりの空気の流れを見てみよう～乗り物の空気抵抗と省エネに関して～」（6/8）

第4回：尹己烈先生（工学部）「自分の道は自分で切り開け」（6/22）

第5回：山口未花子先生（地域科学部）「人は動物と話すことができるのか」（7/20）



第1回 矢部富雄先生



第2回 横川隆志先生



第3回 菊地聡先生



第3回終了後の懇親会の様子



第4回 尹己烈先生



第5回 山口未花子先生

後期にも「高年次教養セミナーII」が開講される予定です。テーマ、担当教員は以下の通りです（時間はすべて17:30～19:45）。興味のある方はぜひ履修登録してみてください。

第1回：林正子先生（地域科学部）「文学で楽しむ岐阜の魅力」（10/19）

第2回：佐々木実先生（工学部）「AI、ロボットにできること、できないこと—過去、現在、未来?—」（11/16）

第3回：堀田亮先生（保健管理センター）「サッカーを心理学で読み解く」（12/14）

第4回：小山真紀先生（流域圏科学研究センター）「やれと言われてもできるわけでないのが防災」（2019/1/11）

第5回：デイビッド・バーカー先生（教育学部）「外国人に言っちゃいけないこと」（2/1）

TOPIC 5

出合いを仕掛けよう！—FD 研究会を開催しました

「出合いのレッスンとしての授業 アイสบレイク入門

—なぜ、学生と学生を出会わせるのか？—実践報告その3」2018年6月27日（水）13:00～15:00 1D教室

今年度の第1回FD研究会は、教育学部教授今村光章先生を講師にお迎えし、「アイสบレイク」の手法を学びました。アイสบレイクとは、一言で言えば、参加者の心の氷を打ち破り、協力しあえる雰囲気を作ることです。今回のFD参加者は、今村先生の指導のもとアイสบレイクの様々な手法——チェーンの作り方、ペアワークの方法など——を実際に体験しました。

FDには理事をはじめ事務職員の方も多く参加され、打ち解けた雰囲気の中で進行し、研究会の最後には様々な質問が出ました。アイสบレイクと講義内容の関係について、今村先生は、15回の授業で学問分野の全てを伝えられるわけではない、授業ではその学問分野への動機付けをすることが大切であり、アイสบレイクを通して、学生がより主体的に学ぶ状況を作った方が効果的であるとの考えを示されました。実際に、早速アイสบレイクを授業で試された教員によると、アイสบレイクをした分、講義内容を少し圧縮し、話すスピードも普段より若干速めになったが、学生の反応は明らかに良く、効果があることを実感されたそうです。

後期にも授業運営の参考となるようなFDを開催しますので、教職員はもちろん学生のみならずぜひご参加ください。



教養教育推進部門（2018年10月現在）

部門長 野村幸弘 専門分野 美術史学
副部門長 瀬瀬 守 専門分野 化学
副部門長 橋本永貢子 専門分野 言語学
副部門長 池田祥英 専門分野 社会学

学修支援部門（2018年10月現在）

副部門長 廣内大輔 専門分野 高等教育論

岐阜大学 教育推進・学生支援機構 教養教育推進部門

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
TEL.058-293-2169
email: gjea01008@jim.gifu-u.ac.jp

<https://twitter.com/GifuKyouyou>
<https://www.facebook.com/GifuKyouyou>

野村幸弘・池田祥英 責任編集